

ひな壇を 完成させてみよう!

ひな人形の正しい置き場所は
分かりますか?
脳トレ気分段飾りを
作ってみましょう。
答えは次のページでチェック。



なると、江戸文化の繁栄に伴ってひな人形も華やかさを極めていきます。三人官女や五人囃子、隨身、仕丁といった人物たちの他、さまざまな道具類が生まれ、ひな壇も5段、7段のものが登場。例年2月末になると、ひな人形やお供え物をする「雛市」が江戸市中に立ち並び、大勢の人でにぎわったといえます。その

盛り上がりは、幕府から再三にわたって華やかな飾り付けを禁ずるお触れが出されたほど。女の子の初節句をお祝いするようになったのも、この頃からといわれています。

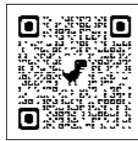
江戸時代に大きく花開いたひな祭りの文化は、時代を超えて今なお私たちの生活に根付いています。



ひな祭り文化普及協会
<http://hina-matsuri.jp/>



監修 清川 紗衣 さん
ひな祭り文化普及協会代表、
(一社)日本の節句文化を継承する会『日本の五節句をユネスコの無形文化遺産にする実行委員会』アドバイザー。



公式 YouTube チャンネル
はこちら

特集

うれしい 楽しい ひな祭り



3月3日は、女の子の健やかな成長と幸せを願うひな祭りです。その起源やひな人形の飾り方などを解説するとともに、全国で開催されるひな祭りイベントを紹介します。

※掲載のイベントは、中止・変更の場合があります
協力：ひな祭り文化普及協会



無病息災や五穀豊穡を祈願する節句 日本古来の風習と相まって独自に発展

季節を彩る年中行事として親しまれ続けているひな祭り。その起源には諸説ありますが、女の子の幸せを願い、豪華な飾り付けでお祝いする現代のようなスタイルになったのは江戸時代からだといわれています。

ひな祭りは元々「上巳の節句」とも言い、中国から伝わった風習「節句」の一つ。旧暦の季節



「十二月ノ内 弥生」
出典：国立国会図書館「NDLイメージバンク」

の花にちなんで「桃の節句」とも呼ばれています。節句は陰陽五行説に基づき、季節の節目にその時期の旬の食材を神様に供え、無病息災や五穀豊穡を祈願するもの。上巳の節句には、ヨモギを使った草餅や邪気を払うと伝わるモモの花を浮かべた桃花酒などをお供えしていました。

かつては生活の中に多くの節句がありました。現在は元和2(1616)年に徳川幕府が定めた「五節句」(1月7日〓人日、3月3日〓上巳、5月5日〓端午、7月7日〓七夕、9月9日〓重陽)が定着しています。

江戸時代に花開いたひな祭り文化 女の子の健康を願う華やかなお祭りに

現在のひな人形の原型とされているのは、室町時代末期に京都を中心で作られた「内裏雛」です。衣冠束帯を着せた「おびな」と、十二単を着せた「めび

な」の男女一対の人形で、その高貴さから人々にとっても大切に扱われました。

江戸時代になり上巳の節句にひな人形を飾って楽しむように



三人官女 2 段目



官女とは宮廷で君主や后妃に仕える職を与えられた女性たちのことで、日常のさまざまな雑役に就いていました。宮廷行事や節句のお祝いの際には、給仕に就くこともあったといわれています。

座っている官女が一人の場合は、写真のように立っている二人で挟むように並べます。逆に立っている官女が一人なら真ん中に置きます。右と左で迷ったら、人形の足に注目を。前に出している足が外側になるように置くのが正解です。

隨身 4 段目



四段目の二人は、要人を警護する武官。童謡では「大臣」の名で登場することから「右大臣・左大臣」の俗称でも親しまれています。

男雛から見て左の方が上位となり、黒い武官束帯を着た高齢の男性を向かって右に、赤い武官束帯を着た若い男性を左に置きます。中央にはひし餅と掛盤膳を並べましょう。

関東風「仕丁」



5 段目 仕丁



1 段目 内裏雛



童謡の歌詞から、男雛を「おだいりさま」、女雛を「おひなさま」と呼ぶ俗称が一般的ですが、正式には男雛と女雛の一对で「内裏雛」と言います。ちなみに「内裏」とは平安京の中にあった天皇の私的居住区で、現在の京都御所に当たります。飾る時は金屏風を後ろに立て、主役の内裏雛を親王台の上に乗せます。関東では向かって左に男雛、関西(主に京都)では向かって右に男雛を置く違いがあります。両脇には雪洞、男雛と女雛の間には、花をさした瓶子を乗せた三方を置きます。

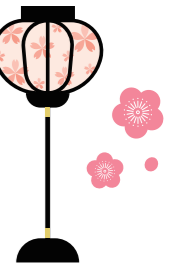
3 段目 五人囃子



雛人形製作：清水久遊

近年はコンパクトなひな人形も人気ですが、華やかなひな壇は日本の大切な伝統文化です。内裏雛に三人官女、五人囃子に隨身、仕丁の総勢15体に加え、道具類がセットになった段飾りは、世界にも類を見ません。豪華絢爛なひな人形の世界を、飾り方のポイントとともに解説します。

日本が誇る伝統文化 ひな人形を深掘り!



囃子は、能や歌舞伎などの芸能で拍子を取ったり、雰囲気盛り上げたりするために奏でられる音楽。ひな人形では、能楽を演奏する際の「地謡」1人と奏者の「囃子方」4人で構成されています。京都などでは、雅楽の演奏者を置く場合もあります。

5人とも元服*前の幼い子供で、かわいらしく、生き生きとした表情が特徴です。

右から扇を持った謡、笛、小鼓、大鼓、太鼓の順に並べます。

*男子成人の儀式。時代や身分によって年齢が前後するが、数え年で12~16歳で行われることが多かった

仕丁は、律令制で定められていた「徭役」に従事する人のことを指します。徭役とは、諸国から50戸に二人の割合で成人男性が都に赴き、君主のために無償で働く制度。地方の労働者が宮廷などでさまざまな雑用を担っていましたが、食料などは故郷が用意するため、負担が大きかったと言われています。そうした背景があっか、仕丁の人形は特に表情が豊かで、それぞれ「泣き上戸」「怒り上戸」「笑い上戸」とも呼ばれています。

京風の場合、真ん中がちり取り、左右はそれぞれ熊手とほうぎを持っています。関東風では、沓台を持った仕丁を真ん中に、左右に台笠と立傘を持った仕丁を並べます。一番外側には、「右近の橋」と「左近の桜」を飾りましょう。